



Агора アゴラ



1993年 7 月 第56号

鶴見大学図書館報

原稿用紙の字詰

文学部教授 古 田 東 朔

○なぜ20字詰なのか

普通は、原稿用紙は20字詰である。なぜそうなのか。ここには、いささか独断的な推定もしるす。もっともかりにそうだとすると、別に役に立つほどのことでもない。ただ自分で不審に思っていたことを、こうではなかろうかと書いてみた。御教示をいただければ幸いである。

ところで周知のように、一般には200字詰で1枚になっているものもあれば、400字詰で1枚になっているものもある。（「一般には」といった。たとえば、本原稿の字詰は21字であ

る。）この400字詰の用紙の方は、中間のところに両方にわたる欄が作られていて、大学などと、そこに学校名がしるされていたりする。いわゆる「柱」である。

この形式は、幕末から明治初年にかけて一般的になったのではないかということである。

○「十行二十字詰」

明治初年の事を回想している文章の中には、「十行二十字詰」という表現に、よく出くわすことがある。

たとえば、明治4年の7月か8月のこととして、佐原純一が『箕作麟祥君伝』の中で述べている百科全書の翻訳に関することである。当時箕作麟祥が編輯寮の長官だったとき、チャンブルの百科全書を項目ごとに分けて、各人に翻訳を分担、依頼して出版したことがある。

百科全書の中の、心理学などはむづかしくつて、誰も訳し手がない。そんなのは、十行二十字の草稿を、一枚四円で箕作先生が

目 次

原稿用紙の字詰……………	古田東朔…	1
個人文庫紹介……………		4
平成4年度図書館年次報告……………		7
新刊あらかると……………		14
図書館だより……………		16

物の説明や、逸話なども含んだ伝統的傾向のものである。この読本も、巻二以降は同じく一ページ分十行二十字詰である。——ただ、上欄には枠に囲んでそれより小さい字で質問を示している。

これらの木版本は、半紙判つまり半紙を二つ折りにして端を切ってそろえた判形である。少しずつ違っているが、縦が大体23センチ～22センチぐらい、横が15センチ～16センチぐらいである。今のA5判より少し大きく、昔菊版といたのに近い。枠で囲んでおり、上の方がある。この一丁分が、400字詰一枚である。中間に「柱」の部分があるので、今の原稿用紙にも、その名残をとどめているものが存する。

しかし、十行二十字詰というのは、このように、新しい政府が、訳文や著作を依頼するときに、一定の字数を基準とし、稿料を考えることから始まったものと判断されるのである。

○その他の十行二十字詰のもの

一応、複製本も含めて、私の手もとで見られるもので、十行二十字詰のものをあげておく。これらの中には、小学教則の中、あるいはその後、教科書としてあげられたもの、漢文形式のもの、漢文訓読調のものが多い。つづけ字の和文のものは少ない。もっとも、これ以外の字詰のものももちろん存するのであって、これらは、こういうものがあるという例にとどまる。

- | | |
|-------|-----------------|
| 加藤弘之 | 真政大意（明3） |
| 箕作麟祥訳 | 泰西勸善訓蒙（明4） |
| 後藤達三訳 | 訓蒙窮理問答（明5） |
| 文部省 | 小学教則（明5） |
| 魚沼正安訳 | 格賢勃斯窮理書直訳（明6） |
| 成島柳北 | 柳橋新誌（完）、同二編（明7） |
| 服部誠一 | 東京新繁昌記（明7～9） |
| 中根 淑 | 慶安小史（明9） |
| 〃 | 日本文典（明9） |
| 高橋易直編 | 明治文抄（明10） |
| 土居光華編 | 偶評今体名家文抄拾遺（明11） |

なお、同僚の田口教授から、漢文のものは、大体22～20字ぐらいだということを教えられた。確かに、上欄に書きこめるだけの余裕をとると、字の大きさからいって、ほぼそのくらいの字数が適当だということになるのだろう。

20字詰は、活字を拾ってそろえていくときの小さい文選箱が20字分だからという説を読んだことがある。しかし、活字ではなく、木版印刷のときから、20字詰は、上のように行われていたのである。

降って、坪内逍遙の『当世書生気質』（明18、19）の例もあげておく。あまり素行のよくない山村という男の話していることである。

ナニサ、汗牛堂の翻訳がネ、一葉十行二十字で以て、二十五銭（トエンティ・ファイブ）といふ約束さ。あんまり安い（ツウ・チイプ）。（第十二回）

話しているのは、かっこの中の英語の方である。なお余計な事だが、ここでは「一葉」といっているが、今は半ペラという。基準の置き方が違ったからだろう。（馬琴は『八犬伝』の第三輯巻之二で「半頁（びら）」といっている。）

○「原稿」とは？

『言海』（明22～24）は、「原稿」という語に、「原（モト）ノ稿本（シタガキ）」という語釈を与えた。では、何の下書きなのか。

最近の辞書では、①として、

印刷するもとなる文章、書画、写真など。
また、ある目的で文章や詩歌などを原稿用紙に書いたもの。草稿。

となっている。確かに、このあとの方の文章は、卒業論文などがあたるのであろう。

だが、かつては、下書きとして、この枠内に書いたものを上から透き写しで清書し直す、あるいは実際に書かないまでも、罫を引いてない白紙を上において、清書をしていくためのものだったから、「原稿」用紙だったのではないか。それが、私の考えである。

個人文庫紹介

研究者、イコール蔵書家という見識ははるか昔に神話となってしまった。大学や公共の図書館が学生や研究者の要求に十分に応えうる実力をもっていれば、いつの世でも研究者で蔵書家というのはあまり存在しなかったように思える。幸い？にしてわが国では最近までそのような習慣が定着せず、個人で営々と文庫（ふみくら）を構築してきた人々が少なからずいた。清貧の身でありながら、狭いうさぎ小屋にせつせと資料をため込むライフスタイルは現在では似合わないが、そうした孤高の精神で収集された蔵書こそは、それを収蔵した図書館のレベルを飛躍的に高めるものである。

本学図書館の個人文庫の来歴、あるいは収蔵の過程は様々ではあるが、個々に共通していえることは唯一無二の貴重性である。一生をかけて収集された専門分野の資料の中には、一般に購入することのできない灰色文献や稀覯ではないが入手不可能な資料が多数含まれている。個人文庫の主なもの、本学に関係した先生方から退官時に寄贈されたものであるが、中には先生の没後ご遺族からいただいたものもある。また斎藤文庫や土方文庫のように、ご遺族との間にはいって仲介して下さる方がいて、はからずも文庫になったものもある。いずれにしてもこれらの資料群は、旧蔵者の意志を十分に考慮にいれて大切に保存し、かつ広く一般に公開し、有意義に利用していきたい。

① 虎 文 庫

〔内容〕

本学の初代図書館長であった武田虎之助先生の旧蔵書。図書館学関係の資料を中心に、社会学、教育学等の周辺領域のものも含む。先生は戦前、戦後を通じて図書館界で長年にわたり活躍された。特に終戦直後、文部省社会教育局で図書館の専門官として在職され、当時国会で成立した現行の図書館法の制定準備にあたった。この法律が形成されて行く過程を示す対進駐軍、対国会等の内部資料である図書館法案・国会答弁資料・米国教育使節団報告書（抄）・図書館法案要綱・Draft library law等を含む「図書館法成立資料集」は、形の上からは片々たるものであっても、一般市場では求め得られない、戦後のわが国の公共図書館運動の歴史資料としては、まことに貴重なものである。ほかに、図書館法同様に先生が関係された「図書館設置基準関係資料集」や先生が終生研究テーマとされた目録関係の資料等が蔵書の中心である。

〔旧蔵者〕

武田虎之助（1897～1974） 図書館学

宮城県生まれ。東北帝国大学図書館勤務をかきりに、台北帝国大学図書館、東京帝国大学図書館等を経て、1948年文部省社会教育局調査員となり、主として「図書館法」制度準備にあたる。東京学芸大学教授、東洋大学教授等を歴任し、1963年本学教授兼図書館長として就任。主著に『図書館学概論』（理想社、1976年）がある。

〔概要〕

創設年度：1970年

所蔵点数：和書 770冊、洋書 101冊、合計 871冊

冊子目録：虎文庫目録（1979年）

紹介文献：鶴見大学報 第109号（1980年）

② 内 山 文 庫

〔内容〕

元短大部保育科の教授で、幼児教育者の先達

として生涯を貫かれた内山憲尚先生の旧蔵書。文庫の大半は先生のご存命中に寄贈されたものであるが、没後ご遺族より譲られたものもある。教育、保育学関係を中心に、仏教学、民俗学、児童文学と多岐にわたるが、いずれも先生が研究・普及に努められた実演童話や創作童話の源泉になった資料である。ほかにも先生が多芸多才であったことを物語るように、川柳、俳画、作詞等の資料も残されている。分けても江戸時代の教科書である往来物や明治から昭和初期にかけての教科書類はこの文庫の白眉であり、幼児教育に関するものを中心とした先生自身の百冊以上の著作とともに貴重である。

〔旧蔵者〕

内山憲尚（1899～1979） 幼児教育学

大阪府生まれ。東洋大学東洋文学科、日本大学法文学部文学科卒。1922年日本童話協会を創立し後に会長に就任。増上寺明德幼稚園、東洋家政女学校東洋幼稚園、聖美幼稚園等の幼児教育の現場を歴任し、多年にわたり幼児教育界に尽力した。1956年本学教授に就任、1974年名誉教授。著書に幼児教育、童話、紙芝居などに関するもの多数。

〔概要〕

創設年度：1976年

所蔵点数：和書3,038冊、洋書98冊、合計
3,136冊

冊子目録：内山文庫目録（1982年）

紹介文献：鶴見大学報 第134号（1982年）

③ 逸 見 文 庫

〔内容〕

わが国における仏教美術研究の大家で、本学では非常勤講師として日本美術史を長年講じられた逸見梅栄先生の旧蔵書。仏教、仏教美術史関係の資料が大半を占め、特に先生の大著である『満蒙北支の宗教美術』（丸善、1943～1944年、10冊）や『満蒙の喇嘛教美術』（法蔵館、

1943年）等も含まれている。また先生が戦前中国各地へ現地踏査された際に仏跡、寺院、仏像等を撮影した写真の乾板（ガラス板）も多数残されており、これらの原資料は戦後外国人の進入をはばんでいた地域のものも多く、あるいはその後の文化大革命で破壊されたと思われるものも含まれていて大変貴重である。

〔旧蔵者〕

逸見梅栄（1891～1977） 美術史学

山形県生まれ。東京帝国大学文学部梵文学科卒。1921年より3年間インドへ留学し、梵語や美術史を学ぶかわら、仏跡の踏査や資料の収集につとめる。高野山大学、駒沢大学、多摩美術大学等の教授を歴任し、1939年より3年間満州、中国北部、内蒙古にてラマ教美術の調査活動に従事した。1963年より本学文学部非常勤講師。かたわら総持寺宝物館館長を勤められた。著書は『仏像の形式』（東出版、1970年）ほか多数。

〔概要〕

創設年度：1977年

所蔵点数：和書 361冊、洋書17冊、合計
378冊

冊子目録：逸見文庫目録（1980年）

紹介文献：なし

④ 土 方 文 庫

〔内容〕

彫刻家で詩人であるとともに、民族誌家でもある土方久功（ひさかつ）の旧蔵書。没後ご遺族から寄贈されたものであるが、民族学関係の大半と日記（大学ノート 123冊）等は国立民族学博物館に寄贈された。本学にはご本人の著作『文化の果にて』（龍星閣、1953年）や『詩集青蜥蜴の夢』（草原社、1982年）等をはじめとして、親交のあった中島敦の全集、串田孫一の隨筆（約50冊）等の文学関係と、従兄弟の子で築地小劇場の生みの親である土方与志の著書もある。ほかにも南太平洋の民族学、美術関係、絵

本等と多彩であり、土方久功の全人的な創作の秘密を解明するヒントとなるに違いない。

〔旧蔵者〕

土方久功（1900～1977） 彫刻家、詩人

東京生まれ。東京美術学校彫塑科卒。川路柳紅の主宰する詩誌『炬火』の同人となり詩を発表したり、彫刻小品を創作する。1929年より12年間パラオに滞在し、未開芸術と彫刻の探索を続け、あるいはこの地域の民族文化に関する資料を収集・記録した。戦後は彫刻の製作と詩作を中心に活動した。処女詩集は『非詩集ボロ』（自家出版、1955年）。

〔概要〕

創設年度：1986年

所蔵点数：和書約 520冊

冊子目録：未整理

紹介文献：なし

⑤ 斎藤文庫

〔内容〕

明治・大正期に英語学者・英語教育家として令名が高かった斎藤秀三郎の旧蔵書。英文学者で本学の元顧問教授の故斎藤勇先生の斡旋で将来された（その経緯は文庫目録の先生の序文に詳しい）。中心は本人の著した2百冊に及ぶ教科書と英語辞書類。中でも圧巻は『英和中辞典』『和英大辞典』『携帯英和辞典』の分冊された校正刷で、そのいずれにも自筆の書込を有することである。ほかには斎藤に少なからず影響を与えたディクソンとスウィントンの著作、斎藤を含めて明治英学の三大家と謳われた神田及武、井上十吉の著作、斎藤の周囲の人々、村田祐治、佐川春水等の著作が注目に値する。

英語学以外では斎藤が教科書や辞典を編する上で参考にした文学書が大半で、ディッケンズやドイルのようなどちらかと言えば通俗作家のものが多く、ゾラやトルストイの英訳本も含まれている。いずれにしてもこの文庫は、斎藤秀

三郎の人と業績を、引いては近代日本がたどってきた英学史・英語学史の一断面を明らかにする時大きな力になるに違いない。

〔旧蔵者〕

斎藤秀三郎（1866～1929） 英語学

宮城県生まれ。工部大学校中退。在学中にディクソンの影響を受け、英語研究に向う。二高、一高教授等を経て、1896年神田に正則英語学校を創立、校長となり、斎藤流の文法を中心とした英語教育を展開。著書は『実用英文典』（興文社、1898～1899、4冊）ほか多数。

〔概要〕

創設年度：1976年

所蔵点数：和書 136冊、洋書1,854冊、合計
1,990冊

冊子目録：斎藤文庫目録（1982年）

紹介文献：名著サプリメント 3巻1号
（名著普及会、1990年）

⑥ 松浦文庫

〔内容〕

文学部創設時の初代英米文学科長であった松浦嘉一先生の旧蔵書。英文学を中心にギリシャ哲学・文学書が大半で、そのほとんどが洋書である。英文学ではダン、シェイクスピア、ブレイク等が優位を占めるが、総じて文学史順に網羅的ではある。ギリシャ関係ではプラトン、アリストテレスに関するものが多い。

〔旧蔵者〕

松浦嘉一（1891～1967） 英文学

愛知県生まれ。東京帝国大学英文科卒。法政大学予科、東京大学、お茶の水女子大学、東京女子大学教授を歴任し、1963年文学部創設とともに英米文学科長に就任。先生は漱石門下で、「木曜会」会員、芥川龍之介、久米正雄らと親しかった。英国の詩人J. ダンの研究家として知られる。

〔概要〕

創設年度：1967年

所蔵点数：1,231冊（主に洋書）

冊子目録：なし（カード目録）

紹介文献：なし

⑦ 滝沢文庫

〔内容〕

昨年度で英米文学科を退職された滝沢陽一先生の旧蔵書。先生には在任中あるいは退職時にと長きにわたり、併せて延べ数千冊にのぼる英文学を中心とする研究書の寄贈を受けてきた。この文庫は先生の希望もあって、その中から英国の現代詩人の著作、特に同時代の詩人の詩集を一箇所に置いて利用して欲しいという要請を受けて誕生したものである。内容はP. ラーキンをはじめとして百人以上の詩人の詩集である。

〔旧蔵者〕

滝沢陽一（1923～ ） 英文学

長野県生まれ。東京帝国大学英文科卒。1951年米国南メソジスト大学に留学。東洋英和女学院短期大学、東京神学大学教授等を歴任。1969年より本学英米文学科教授。「第一次世界大戦以後現代までの英国詩研究」および「英国現代文学とキリスト教」が研究テーマである。

〔概要〕

創設年度：1993年

所蔵点数：422冊

冊子目録：未整理

紹介文献：なし

⑧ 大橋文庫

〔内容〕

現代米文学の研究者として著名であり、昨年まで本学英米文学科教授であられた大橋健三郎先生の旧蔵書。先生のご退職時に和洋併せて4千冊以上のアメリカ文化・文学関係の資料の寄贈を受けたが、その内の洋書のみを文庫としたもの。8割は米文学が占め、フォークナー、ヘ

ミングウェイ等の20世紀の作家の作品、研究書が中心。本学では英文学に比べ米文学の資料が手薄なため、大変貴重な資料群となろう。

〔旧蔵者〕

大橋健三郎（1919～ ） 米文学

京都府生まれ。東京外国語学校英語部文科、東北帝国大学法文学部文学科卒。1950年米国チューレン大学留学。東京外国語大学助教授、東京大学教授を歴任。1980年本学英米文学科教授として就任。著書は『危機の文学』（南雲堂、1957年）『荒野と文明』（研究社、1965年）ほか多数。

〔概要〕

創設年度：1992年

所蔵点数：1,737冊（全て洋書）

冊子目録：仮目録

紹介文献：なし

⑨ コッヘル文庫

〔内容〕

著名な生理・病理学者であるコッヘルの旧蔵書。大半はドイツ語の文献で、主に生理学、病理学、内科学、外科学に関するもの。一部にフランス語の文献もある。

〔旧蔵者〕

コッヘル（Emil Theodor Kocher,

1841～1917） 生理学、病理学、外科学

スイス生まれ。甲状腺摘出性悪液質を最初に記載し、そのほか外科学のあらゆる分野にわたって幾多の業績を残した。特に甲状腺の生理、病理および外科に関する業績により1909年ノーベル生理・医学賞を受けた。コッヘル鉗子は彼の考案になるものである。

〔概要〕

創設年度：1983年

所蔵点数：1,908冊、雑誌25点

冊子目録：未整理

紹介文献：なし

平成4年度 図書館年次報告

I 図書予算及び決算（資料費）

II 資 料

1. 受入冊数 2. 蔵書冊数 3. 整理冊数
4. 逐次刊行物継続受入タイトル数

III 利用状況

1. 閲覧 2. 参考業務 3. AVホール映写会 4. 展示

IV 図書館の動き

1. 組織及び人事 2. 学外組織・団体委員等の委嘱及び会員
3. 職員研修 4. 刊行物
5. 図書委員会

I 図書予算及び決算（資料費）

	文 学 部		歯 学 部		短 大 部	
	予 算	決 算	予 算	決 算	予 算	決 算
図 書	81,055,000	81,049,719	20,085,000	19,812,726	31,295,000	31,291,558
バックナンバー	0	0	4,120,000	695,000	0	0
学 術 雑 誌	5,000,000	5,001,162	57,680,000	68,066,813	3,600,000	3,600,685
編 入 図 書	1,800,000	1,800,000	8,755,000	5,053,820	1,100,000	1,100,990
計	87,855,000	87,850,881	90,640,000	93,628,359	35,995,000	35,993,233
総 資 料 費	予 算 (214,490,000)		決 算 (217,472,473)			

II 資 料

1. 受入冊数

和	洋	合 計
14,693	5,262	19,955

2. 蔵書冊数

平成4年度末 蔵書冊数 435,657冊

○登録数

図 書 444,542冊

非図書 5,074点

○除籍数 13,959冊

(平成4年度除籍冊数：323冊)

3. 整理冊数

整理冊数は右表に示す通り。

この他に逐次刊行物がある。

逐次刊行物

1,255冊

	和	洋	合 計
0 総 記	883	257	1,140
1 哲学宗教	748	52	800
2 歴史地理	1,085	39	1,124
3 社会科学	1,656	38	1,694
4 自然科学	1,649	294	1,943
5 工 学	200	4	204
6 産 業	120	9	129
7 芸 術	1,012	124	1,136
8 語 学	427	231	658
9 文 学	3,908	1,632	5,540
J 絵 本	189	155	344
T 展観目録	133	1	134
計	12,010	2,836	14,846

4. 逐次刊行物継続受入タイトル数

	和 文	欧 文	合 計
人文・社会科学	2,402	269	2,671
自 然 科 学	779	953	1,732
逐次的刊行図書	368	292	660
合 計	3,549	1,514	5,063

Ⅲ 利用 状 況

1. 閲覧

① 開館日数・入館者数

	1992	前年度	前年比
開 館 日 数	270	267	1.12%
入 館 者 数	339,999	335,961	1.20%

② 図書の貸出

	学 生	教 職 員	講 習 生	卒 業 生	合 計
貸出冊数	31,829	4,956	1,572	11	38,368
前 年 度	30,380	3,570	2,233	7	36,190
前 年 比	4.77%	38.82%	-29.60%	57.14%	6.02%

学生の一般貸出（学科別学年別冊数）

	1992	前年度	前年比
日文 1 年	1,494	2,051	-27.16%
2 年	3,106	2,497	24.39
3 年	2,714	3,521	-22.92
4 年	4,934	4,181	18.01
日文 計	12,248	12,250	-0.02
英文 1 年	1,383	963	43.61
2 年	1,367	699	95.57
3 年	1,393	1,273	9.43
4 年	2,011	2,519	-20.17
英文 計	6,154	5,454	12.83
文学部計	18,402	17,704	3.94
歯学 1 年	273	236	15.68
2 年	492	390	26.15
3 年	917	1,103	-16.86
4 年	1,066	617	72.77
5 年	915	1,188	-22.98
6 年	999	822	21.53
歯学部計	4,662	4,356	7.02

	1992	前年度	前年比
国文 1 年	3,484	3,145	10.78%
2 年	2,210	2,339	-5.52
国文 計	5,694	5,484	3.83
保育 1 年	1,006	889	13.16
2 年	1,221	1,420	-14.01
保育 計	2,227	2,309	-3.55
歯衛 1 年	291	276	5.43
2 年	503	232	116.81
歯衛 計	794	508	56.30
短大部計	8,715	8,301	4.99

総 計	31,779	30,361	4.67
-----	--------	--------	------

③ 雑誌の貸出・閲覧

	1992	前年度
学生の閲覧冊数	1,587	1,844
教職員の貸出冊数	443	547

④ 複写

種 類	1992	1991
学内 校費	281,659	266,870
学内 私費	1,357	2,997
学外 私費	31,581	33,779
カード&コイン式	566,274	712,257
合 計	880,871	1,015,903

⑤ 相互協力（件数）

	複 写		現 物		閲 覧	
	申 込	受 付	申 込	受 付	申 込	受 付
人 文	140	415	17	4	25	85
自 然	427	5,542	11	4	0	59
合 計	567	5,957	28	8	25	144

2. 参考業務

◎回答業務

	学 生		教 員		職 員		外 部		計		合 計
	1 F	2 F	1 F	2 F	1 F	2 F	1 F	2 F	1 F	2 F	
利 用 指 導	114	13	0	81	0	0	10	0	124	94	218
事 項 調 査	104	0	31	0	23	0	7	0	165	0	165
所 在 調 査	74	1	57	58	15	0	3	164	149	223	372
オンライン検索	11	0	150	112	0	0	0	0	161	112	273
計	303	14	238	251	38	0	20	164	599	429	1,028

※「外部」には講習生を含む。

◎CD-ROM利用件数

学 生		教 員		職 員		外 部		計		合 計
1 F	2 F	1 F	2 F	1 F	2 F	1 F	2 F	1 F	2 F	
384	0	0	404	0	0	0	0	384	404	788

3. A Vホール映写会

回数	開催日	題 名	参加者
1	92.4.6	悲しみよこんにちわ	11
2	4.7	リトル・ショップ・オブ・ホラーズ	8
3	4.8	ヘルプ	10
4	4.9	プリティ・ウーマン	27
5	4.10	天空の城ラピュタ	29
6	4.20	アンタタッチャブル	7
7	4.28	昼下がりの情事	15
8	5.8	摩天楼はバラ色に	9
9	5.15	アパートの鍵貸します	11
10	5.20	暗くなるまで待って	27
11	5.25	愛と青春の旅立ち	7
12	6.2	魔女の宅急便	6
13	6.10	ホテル・ニューハンプシャー	16
14	6.15	メジャー・リーグ	11

15	6.26	おしゃれ泥棒	17
16	7.1	銀河鉄道の夜	32
17	10.9	天国から来たチャンピオン	27
18	10.14	あ・うん	6
19	10.20	ゴースト ニューヨークの幻	32
20	10.26	八月の鯨	21
21	11.6	パリの大泥棒	3
22	11.16	スティング	11
23	11.25	俺たちは天使じゃない	16
24	12.1	ホーム・アローン	43
25	12.9	3 4 丁目の奇跡	26
26	12.18	ラッキー・カフェ	10
27	93.1.11	シャレード	7

合 計 人 数 445名

1 回平均人数 16名

4. 展示

回 数	期 間	テ ー マ	担 当
60	6.1～6.20	西洋美術にみる歯科風俗史	図書館
61	11.7～11.19	シェイクスピアの全集	図書館
62	11.24～12.19	与謝野晶子と源氏物語	図書館
63	1.8～1.23	貞政少登VS飯島弥栄子	図書館

IV 図書館の働き

1. 組織および人事

堀之内章乃が退職

嶋居幸子（新任）が総務係へ

近藤聡子が逐次刊行物係へ

2. 学外組織・団体委員等の委嘱

学術情報センター総合目録委員会委員 丸山昭二郎

日本図書館協会

評議員 飯島弥栄子

大学図書館部会委員 飯島弥栄子

資料保存委員会委員 海野雅央

「現代の図書館」編集委員会委員 長谷川豊祐

私立大学図書館協会

東地区部会研究部担当理事 飯島弥栄子

役員校選考委員 飯島弥栄子

研究部常任幹事 長谷川豊祐

研究部研修委員会委員 樋川清司

第5回日米大学図書館会議

日本側代表団員 樋川清司

神奈川県図書館協会

副会長 丸山昭二郎

企画委員会委員 飯島弥栄子

大学図書館問題調査研究委員会委員 飯島弥栄子

神奈川県内相互協力協議会

現物貸借ワーキンググループ委員 府川修次

日本図書館学会

編集委員会委員 吉田道彦、海野雅央

日本電子工業振興会

表記、表現専門委員会委員 長谷川豊祐

私立大学図書館協会東地区部会研究部

資料組織研究分科会 吉田千登世

書誌調査 " 田村 早智

企画広報 " 平柳 和巳

3. 職員研修

・神奈川県図書館協会第1回職員研修会：国立国会図書館（4.28） 竹信

・医学図書館協会・第63回総会：九州厚生年金会館（5.28～29） 飯島・高橋

・IBM図書館システム実演会：兜町システムプラザ（5.22） 鈴木誠

・図書館等職員著作権実務講習会：東京大学（7.22～24） 近藤

・私立短期大学図書館担当者研修会：鹿児島林田ホテル（7.20～22） 府川

・私立大学図書館協会・第53回総大会・研究会：慶応義塾大学藤沢キャンパス（7.28～30）

丸山・有岡・飯島・蓮見・田村

・私立大学図書館協会・資料組織研究分科会夏期合宿：箱根きのくにや本館（8.26～28） 松森

・私立大学図書館協会・企画広報研究分科会夏期合宿：水上来去荘（8.31～9.3） 平柳

・都短協・図書館研究協議会：アルカディア市ヶ谷（9.7～8） 鈴木芳

- ・私立大学協会・大学図書館司書主務者研修会：
札幌ガーデンパレス（9.9～11）吉田千
- ・私立大学図書館協会・書誌調査研究分科会夏期
合宿：国立婦人教育会館他（9.5～7）田村
- ・医学図書館協会・第13回歯学図書館員研修会：
日本歯科大学・新潟（9.24～25）鈴木誠・平
柳
- ・日米ワンデイセミナー：京都外国語大学
（10.12）飯島・四方田
- ・第5回目録システム講習会：学術情報センター
（10.12～16）近藤
- ・第3回資料保存シンポジウム：国立国会図書館
（10.26）海野
- ・短期大学図書館全国研修会：古流かたばみ会館
（10.22～23）竹信
- ・日本図書館協会第78回全国図書館大会：愛知芸
術文化センター（11.17～19）吉田道・浅香
- ・文部省・大学図書館職員講習会：東京大学
（11.9～12）竹信
- ・石川文化事業財団設立50周年記念事業展：お茶
の水スクエア（11.2）丸山・海野・蓮見・鈴木
芳
- ・雄松堂フォーラム：ホテルグランドパレス
（11.6）吉田千・竹信
- ・学術情報センター第12回公開講演会：国立国会
図書館（11.20）長谷川
- ・大学NECコンピュータユーザー会・第4回研
究会：立命館大学（11.26～27）鈴木誠
- ・第5回ライブラリーオートメーション：中央大
学（12.4）鈴木誠
- ・図書館情報ネットワークシステム「LINUS」セ
ミナー：横河H. P ㈱（1.22）鈴木誠
- ・第7回人権啓発研究集会：県民ホール他
（2.16～17）飯島・吉田道
- ・NECビジネスUNIXセミナー：NEC横浜
サントピア（2.19）鈴木誠
- ・SIST・第69回普及説明会：JICST（2.24）長
谷川

- ・日本図書館協会大学部会臨時研究集会：早稲田
大学図書館（3.17）蓮見・高橋

4. 刊行物

①広報資料

館報「アゴラ」第50号～第54号（各2,500部）

②書誌・目録

特定テーマ別蔵書目録集成

3. 源氏物語

5. 図書委員会

委員：田口暢穂教授（日文）、土屋順子教授
（英文）、渡辺祐子教授（文総合）、雨宮義弘教
授、千葉元永教授、佐々木史江教授（歯学）、久
富哲雄教授（国文）、斎藤龍教授（保育）、新井
松夫助教授（歯衛）、小倉美恵子教授（短総合）、
丸山昭二郎図書館長、有岡章図書館事務長代行、
山本龍太郎歯学部事務長

5月21日（木） 第1回図書委員会

6月25日（木） 第2回図書委員会

11月26日（木） 第3回図書委員会

新刊あらかると

——情報科学・図書館学——

- コンピュータ・ウイルス その正体と撃退法の
ABC 山本隆雄他著 講談社 1993
(007.64-C)
- ブックライフ自由自在 荒俣宏著 太田出版
1992 (020.4-A)
- ボン書店の幻 モダニズム出版社の光と影 内
堀弘著 白地社 1992 (023.1-U)
- 世論の嘘 新聞の偽善 永田照海著 新潮社
1992 (070.4-N)

——哲学・宗教——

- 暮らしの中の色彩心理 相馬一郎著 読売新聞
社 1992 (141.21-S)
- 中国占星術の世界 橋本敬造著 東方書店
1993 (148.8-H)
- 宗教の復讐 ジル・ケベル著 晶文社 1992
(160.2-K)
- 伊勢神宮の衣食住 矢野憲一著 東京書籍
1992 (175.8-Y)

——歴史・地理——

- 古代を発掘する 熊野正也編 六興出版 1992
(210.025-K)
- 説話の語る日本の中世 関幸彦著 そしえて
1992 (210.4-S)
- 鬼の太平記 まんじゅう伝来史 沢史生著 彩
流社 1992 (210.45-S)
- 琉球王朝史 新里金福著 朝文社 1993
(219.9-A)
- コロンブス——聖者か、破壊者か ミシエル・
ルケーヌ著 創元社 1992 (289.3-L)
- インカコーラ ペルー紀行 マンシュ・パリス
著 図書出版社 1992 (296.809-P)

最近整理された資料の一部を紹介します。

書名(叢書名)、著者名、出版社、出版年、
(請求記号)の順になっています。

——社会科学——

- アメリカン・ドリーム その崩壊と再生 青木
透著 丸善 1993 (302.53-A)
- 国境——幻想のボーダレス・ワールド 柳沢賢
一郎著 丸善 1992 (304-Y)
- 男の座標軸 企業から家庭・社会へ (岩波新書)
鹿嶋敬著 岩波書店 1993 (316.33-K)
- 近現代史のなかの日本と東南アジア 吉川利治
編著 東京書籍 1992 (319.1023-K)
- 学校は必要か 子どもの育つ場を求めて 奥地
圭子著 日本放送出版協会 1992 (370.4-O)
- 日本人の葬儀 新谷尚紀著 紀伊國屋書店
1992 (385.6-S)
- 神子(みこ)の家の女たち 神田より子著 東京
堂出版 1992 (387-K)

——自然科学——

- 現代の惑星学 小森長生著 東海大学出版会
1992 (445-K)
- 海中世界に挑む 関邦博著 丸善 1992
(452-S)
- 滅びゆく日本の昆虫50種 朝比奈正二郎編著
築地書館 1993 (486-H)
- 医者につけるクスリ 永井明著 平凡社 1992
(490.4-N)
- 歯医者復活作戦 いま、歯と歯医者がない！
鈴木裕夫著 大村書店 1992 (D04-S)
- 歯列矯正のすすめ スーパー・スマイルをあな
たに 福原達郎著 勤草書房 1993 (D55-F)
- 心をつかむ「聞き方」の本 職場メンタルヘル
スのために 矢澤佑介著 講談社 1993
(498.8-Y)
- 東西生薬考 大塚恭男著 創元社 1993
(499.87-O)

——工学・産業——

- ジオフロントー地下の大都会 伊藤滋著 読売新聞社 1991 (518.8-I)
- 柱離宮物語 人と建築の風景 西和夫著 筑摩書房 1992 (521.8-N)
- 電気自動車の時代 読売新聞社編 読売新聞社 1991 (546.59-D)
- 光ファイバ通信 (岩波新書) 大越孝敬著 岩波書店 1993 (547.68-0)
- コンピュータ産業 ガリヴァ支那の終焉 坂本和一著 有斐閣 1992 (548.2-S)
- カードの科学 磁気からICへカードは進化する 瀬川至朗著 講談社 1993 (549.8-S)
- 生分解性プラスチックのおはなし 環境にやさしい新素材 土肥義治編 日本規格協会 1991 (578.4-S)

——芸術・スポーツ——

- 風霜の中で 私の絵筆日記 佐多芳郎著 毎日新聞社 1992 (721.9-S)
- 日本写真史を歩く 飯沢耕太郎著 新潮社 1992 (740.21-I)
- デザインの20世紀 柏木博著 日本放送出版協会 1992 (757-K)
- あしたの太鼓打ちへ 林英哲著 晶文社 1992 (768.17-H)
- イエロー・フェイス ハリウッド映画にみるアジア人の肖像 村上由見子著 朝日新聞社 1993 (778.253-M)

——語学——

- アメリカ翻訳武者修行 佐藤紘彰著 丸善 1993 (801.7-S)
- 密語のゆくえ 松枝到著 岩波書店 1992 (804-M)
- ことばの未来学 千年後を予測する (講談社現代新書) 城生佰太郎 講談社 1992 (811.1-J)

- 世界の英語小事典 石黒昭博編 研究社出版 1992 (830-I)

——文学——

- 感動の幾何学 I 方法としての文学人類学 大熊昭信著 彩流社 1992 (901-0)
- 子どもの本の魅力ー宮沢賢治から安房直子まで 岡田純也著 KTC中央出版 1992 (909-0)
- 文学の中の神奈川 神奈川県民部広報課 1991 (910.2-B)
- 文学者追跡 1990年1月～1992年3月 小山鉄郎著 文藝春秋 1992 (910.268-K)
- 南島の文学・民俗・歴史 山下欣一・谷川健一編 三一書房 1992 (910.29-N)
- 時の庭 那珂太郎著 小澤書店 1992 (911.5-N9)
- 走る女 歌謡の中世から 馬場光子著 筑摩書房 1992 (911.64-B)
- 孤狸庵 歴史の夜話 遠藤周作著 牧羊社 1992 (913.6-E9)
- 海の文学志 尾崎秀樹著 白水社 1992 (914.6-025)
- 新・書物の解体学 吉本隆明著 メタローク 1992 (914.6-Y24)
- アジアの不思議な町 巖谷國土著 筑摩書房 1992 (915.6-I)
- 漢詩のイメージ 佐藤保著 大修館書店 1992 (921-S)
- ある翻訳家の雑記帖 Afterwords 新庄哲夫著 河出書房新社 1992 (930.7-S)
- アメリカン・ゴシックの水脈 八木敏雄著 研究社出版 1992 (A930.62-Y)
- アメリカ黒人女性作家論 加藤恒彦著 御茶の水書房 1991 (A930.8-K)
- ドン・キホーテの心理学 サルバドル・デ・マダリアーガ著 晶文社 1992 (963-M)

図書館だより

◎開館日のお知らせ（7～10月）

●=閉館日

□=開館時間短縮日

月～金曜日 9:00～16:30（但し、水曜日 9:30～16:30） 土曜日 9:00～12:30

7	8	9	10
日 月 火 水 木 金 土	日 月 火 水 木 金 土	日 月 火 水 木 金 土	日 月 火 水 木 金 土
1 2 3	① 2 3 4 5 6 7	1 2 3 4	1 2
④ 5 6 7 8 9 10	⑧ 9 10 11 12 ⑬ ⑭	⑤ 6 7 8 9 10 11	③ 4 5 6 7 8 9
⑪ 12 13 14 15 16 17	⑮ 16 17 18 19 20 21	⑫ 13 14 ⑮ 16 17 18	⑩ ⑪ 12 13 14 15 16
⑱ 19 20 21 22 23 24	⑳ 23 24 25 26 27 28	⑲ 20 21 22 ㉓ 24 25	⑰ 18 19 20 21 22 23
㉔ 26 27 28 ㉙ ㉚ ㉛	㉙ ㉚ ㉛	㉔ 27 28 29 ㉞	㉙ 25 26 27 28 29 ㉞

◎夏休みの貸出について

◇学生

歯学部

冊数 4冊

期間 7月5日(月)～8月30日(月)までに

借りた図書の返却日は9月13日(月)

※8月31日(火)からは平常に戻ります。

文学部・短大部

冊数 4冊

期間 7月15日(木)～9月10日(金)までに

借りた図書の返却日は9月24日(金)

※9月11日(土)からは平常に戻ります。

◇文学部4年生及び教職員

冊数 10冊

期間 7月15日(木)～8月24日(火)までに

借りた図書の返却日は9月24日(金)

※8月25日(水)からは平常に戻ります。

◇図書館司書・司書補講習生

冊数 3冊 期間 3日間

貸出開始日 7月2日(金)

最終返却日 9月29日(水)

◎視聴覚サービスのお知らせ

7月20日(火)～9月22日(水)は閉室します。

9月24日(金)より平常開室します。

◎近隣の高校生の図書館利用について

近隣の高等学校に在籍する高校生を対象に夏季休暇中に図書館利用を認めることになりました。

期間は、8月2日(月)～8月31日(火)の1ヶ月間で、利用の内容は所蔵資料の閲覧や複写で貸出はしません。詳細はメインカウンターまで。

アゴラ —— 鶴見大学図書館報 —— 第56号 1993年7月10日発行

編集・発行 鶴見大学図書館 丸山昭二郎

〒230 横浜市鶴見区鶴見2-1-3 ☎ 045-581-1001 FAX 045-584-8197

印刷／朝日オフセット印刷㈱ (045)511-0141